

目 次

ごあいさつ	日野市長 大坪冬彦	1
ごあいさつ	公益財団法人清河八郎記念館理事長 齋藤耕治	ii
例 言		iii
第一篇 巡回特別展 新選組誕生と清河八郎		
はじめに		
第一節 清河八郎、本懐を自叙伝に託す		1
第二節 自叙伝への危惧		3
第一章 清河八郎の生い立ちと学問		3
第一節 庄内清川の豪農斎藤家		4
第二節 はじめての江戸遊学		4
第三節 旅行による視野の拡大		5
第四節 江戸の学問・剣術修行		6
第五節 学者としての自立		7
第六節 著述活動		8
第七節 江戸の塾再開		9
第八節 書画・刀剣稼業		10
第二章 清河八郎の人脈と活動		
第一節 虎尾の会 江戸尊攘派の旗揚げ		11
第二節 川越の同志と広福寺		11
第三節 根岸友山との出会い		12
第四節 ヒュースケン暗殺事件		13
第五節 水戸尊攘派との提携模索		14
第六節 幕府、清河らの一斉逮捕を指令		15
第七節 逃亡生活と西国遊説		15
第八節 京都拳兵の計画		17
第九節 寺田屋事件での挫折		21
第十節 大赦の運動へ傾斜		23
第十一節 清河の赦免		24
第三章 浪士組		
第一節 幕閣、浪士対策を決断		25

展示品目録

第二篇 清河八郎・浪士組・新徴組史料調査報告			
第一章 清河八郎・浪士組・新徴組関係史料集			
第一節 鶴岡市郷土資料館所蔵文書			
文久二年（一八六二年）原氏写 風説書（幕末の政情に関する覚書）	1	1	41
文久元年（一八六一年）～明治二年（一八六九年）	2	2	41
聞書雑書（抄）			
万延・文久年間 温海組大庄屋御用留抄	3	3	43
莊内脱藩勤王志士資料 清川八郎（抄）	4	4	43
大府頼録四十五 文久二年（一八六三年）上（抄）	5	5	43
大府輯録四十七 文久三年（一八六三年）壱（抄）	6	6	43
大府輯録四十八 文久三年（一八六三年）弐（抄）	7	7	43
第一節 根岸友憲氏所蔵文書（埼玉県立文書館寄託）			
文久元年（一八六一年）正月二十五日 根岸友山・冴山賢兄宛 清河八郎書状	1	1	43
文久元年（一八六一年）二月二日 根岸友山宛 清河八郎書状	2	2	43
文久三年（一八六一年）正月七日 根岸伴七宛 清河八郎書状	3	3	43
第二節 浪士組徵募の展開			
第三節 北関東への徵募活動			
第四節 浪士組の編成			
第五節 根岸友山らの参加			
第六節 江戸試衛館・近藤勇のグループ			
第七節 浪士組の上洛			
第八節 浪士組、東帰する 江戸で日英戦争の危機			
第九節 浪士組解体、清河八郎の暗殺			
第十節 新徴組の誕生 幕臣から庄内藩士へ			
第四章 新選組誕生			
第一節 壬生浪士組			
第二節 根岸友山グループ			
第三節 芹沢鴨グループ			
第四節 八月十八日の政変			
第五節 思想的に純化した新選組			

4	文久三年（一八六一年）正月二五日	根岸伴七宛清河八郎書状	61
5	文久三年（一八六年）二月三日	根岸伴七宛根岸友山書状	61
6	文久三年（一八六年）二月二四日	根岸伴七宛根岸友山書状	61
7	江戸年未詳九月二十五日	根岸伴七宛千葉周作書状	61
8	文久三年（一八六年）七月四日	根岸伴七宛町田賢藏書状	62
9	文久三年（一八六年）二月	浪士上京之節運名上書之写	62
10	文久三年（一八六年）二月	御用留	63
11	文久三年（一八六年）三月	根岸友山 御用留	68
12	文久三年（一八六年）初夏	一番組根岸友山 御用留 第壹冊	70
13	文久三年（一八六年）六月	新徵組一番根岸友山 御用留 第二冊	78
14	文久三年（一八六年）晚秋	新徵組一番根岸友山 御用留 第四冊	84
1	中村定弘氏所蔵文書	86
2	文久三年（一八六年）正月晦日	根岸友山宛北野小兵衛書状	86
3	文久三年（一八六年）四月二九日	中村伊右衛門宛中村定右衛門書	86
4	文久三年（一八六年）一〇月二八日	中村定右衛門宛山田宗司口上	86
5	文久三年（一八六年）一〇月晦日	中村定右衛門宛宗右衛門書状	86
6	文久三年（一八六年）一〇月頃	新徵組中村定右衛門明細短	86
7	文久三年（一八六年）頃一二月三日	中村定右衛門死三上七郎書	86
8	文久三年（一八六年）一〇月頃	新徵組劍術教授方小頭中村定右衛門印	87
9	文久四年（一八六年）二月八日	中村定右衛門宛根岸友山書	87
10	文久四年（一八六年）二月八日	中村定右衛門宛根岸友山書	87
11	文久四年（一八六年）二月二三日	中村定右衛門宛塙田東作書状	88
12	文久四年（一八六年）二月二三日	新徵組田辺富之祐歎願書	88
13	文久四年（一八六年）二月八日	中村定右衛門宛申渡	88
14	文久四年（一八六年）二月二三日	熊谷在原島村名主四郎兵衛宛中村定右衛門書状	88
15	文久四年（一八六年）二月頃	中村定右衛門宛田口徳次郎舌代	88
16	文久四年（一八六年）六月	中村定右衛門宛申渡	88
17	文久四年（一八六年）一〇月	新徵組規則控 中村定右衛門	89
18	文久四年（一八六年）正月	御用留 中村定右衛門	89

19 文久三年（一八六年）～元治二年（一八六年）三月七日 新徵組一条
 (中村定右衛門等赦免歎願留)
 第三篇 シンボジウム 浪士組、新選組、新徵組は教科書に載っているか?
 パネリスト 宮地正人、深谷克己、酒井右二、千葉真由美、西脇康
 附 第六回新選組書展開催の記録
 英文目次
 122 115 97 93